

1 学校として目指す授業

考え、豊かに表現する力を育てる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語科は、全国や都の平均を上回り、学力は概ね定着している。話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめるのが苦手である。 ・算数科は、全国や都の平均を上回り、学力は概ね定着している。平行四辺形の作図や分数の捉えに関する領域の理解が低い。 ・理科は、全国や都の平均を上回り、学力は概ね定着している。実験の方法を発想したり問題を見出ししたりしながら表現することが苦手である。	・算数や理科に比べ、国語の授業が好きな児童の割合が低い。 ・7割以上の児童が、新聞を読んでいない。 ・ICTを活用した友達との対話、調べたことや考えたことの表現について、自信をもっていたり肯定的に捉えたりしている児童の割合が高い。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析 (小学校4～6年生)

・国語や算数と比べ、社会の授業が分かる、得意と答えた児童の割合が低い。  
 ・学習する理由として、内的要因が高いため、学びの方法を工夫・改善していくことで、主体的に学ぶ力をさらに高めていくことができる。  
 ・学校以外の学習の進め方について、授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを調べるようにしている児童の割合が低い。家庭学習との関連を踏まえ、家庭学習そのもののあり方や取組方について考えていく。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

3 児童の学力・学習状況等の課題

・問題の解決に向け、資料や友達の考えを参考にしたり比較したりしながら、自分の考えをまとめることが苦手であるため、筋道を立てて表現する方法を身に付ける必要がある。  
 ・各教科、基礎・基本の内容について、未定着な領域が見られるため、授業における確実な定着や計画的な復習が必要である。

**【授業改善推進プランの活用法】**

- 「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
- 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- 「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- 「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- 12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・ICTを適切に活用し、自己に適した表現方法の選択

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価						
低学年	教科書の本文も拡大提示し、視覚的に分かりやすくすることで言葉や表現に着目できるようにする。タブレットを活用して友達の意見を視覚的に共有できる。				デジタル教科書やプレゼンテーションソフトを活用し、問題や児童の考えを黒板に投影し、全体で問題把握を適切に行えるようにする。具体物を操作する活動を増やし、理解を確実にする。				タブレットで記録した発見や考えを班や友達と共有し、小グループで比較検討する活動を取り入れる。目の前のスクリーンに映して発表することで、自分の考えを表現する力を育てる。				材料と素材の特徴を捉える時間を確保し、自分のイメージしたことを表現する活動を通して、発想する力を育む				教員が模範的な動きを動画で撮影し、全体に提示することで、遊び方を広げたり良い動きを確認・共有できたりするようにする。				教材提示の際にデジタル教材の朗読機能や紙芝居機能を用いて、より児童が教材の世界観に入り込めるようにする。							
中学年	話し合う活動の機会を確保し、モデルを示して活動を積み上げていく。話し合いでは、少人数での交流も組み込み、安心して表現できるように配慮する。ICTを活用し、他者参照をしながら自分の考えを深められるようにする。		資料を読み取り情報を整理する時間を設ける。図書資料やタブレットを活用して、得た情報を精査し、新聞やポスター、GIGA端末等にまとめたり、発表したりする機会を意図的に取り入れる。		数量関係や課題を正しく把握するために語句に線を引きながら問題を読んだり図や表、式を用いて自分の考えを書いたりする活動を十分に確保する。また、ICTの活用や協働の場面を取り入れることで、多面的に考えることができるようにする。		得られた実験結果について、自分の予想と比べることで、自分の考えをまとめさせやすくする。グループや全体で共有する場を意図的につくり、他者の考えを参考にできる活動を取り入れる。				ペア学習やグループ学習の方法を工夫し、友達から音楽のよさや面白さを味わえるようにし、自分の音楽に生かせるようにする。				思いついたことを試す活動や試して感じたことを共有する時間を十分に確保することで、発想や構想する力を育む。				運動のポイントを抑えやすくし、考えたことや分かったことを友達と共有する。また、運動のポイントが一目でわかるワークシートを活用し、思考力・表現力を高める。				発問の構成や精選、話し合いや書く活動の工夫により、互いの考えを伝え合い、意識して多面的・多角的に考えられるようにする。					
高学年	互いの立場や意図を明確にしながら自信をもって自分の考えを書いたり、話し合ったりする場面を多く設定する。		視聴覚教材（図書資料やタブレット）を有効に活用し、自ら課題や追究したいことをもたせる授業展開の工夫をする。調べ学習では、予想する、調べる、考えをまとめるなどの学習過程を通して私たちの生活との関連や比較をさせ、学びを深める活動を意図的に設定する。		数量関係や課題を明確にし、表や式、グラフを用いて自分の考えをまとめる活動を十分に確保する。また、ICTの活用も取り入れ、自立的、協働的に取り組みながら多面的に考えることができるようにする。		生活経験や既習事項を根拠に、実験結果を予想する活動を設ける。また、立てた予想を実証するための実験方法を考え立案する活動を設ける。さらに、実験結果をもとにして、仮説の妥当性を説明する活動を充実させる。				気付いたことと感じ取ったことを結び付けて音楽活動をする場面を多く設定することで、音楽のよさを深められるようにする。				どうすれば生活をよりよくしていけるのかを考え、調べることで思考力を高めるとともに、友達との意見の交換を通して、さらに思考を深める。				どうすれば生活をよりよくしていけるのかを考え、調べることで思考力を高めるとともに、友達との意見の交換を通して、さらに思考を深める。				タブレットや資料と照らし合わせて動きを確認したり、友達と見合ったりする中で客観的に観察し、良さや改善点を見付けける。その内容を伝え合うことで思考力や表現力を深める。				互いの考えを伝え合うことで答えは一つではなく、多様な価値があることに気付かせる。多面的・多角的な視点をもたせ、自己の生き方について考えを深める。	